長門本忠臣蔵

全

へ逸13
1492

門へ逸13
1.492

六樹園先生閲

石川清澄大人補
蘭齋島北嵩子畫

衆星閣梓

長門本忠臣藏

全部一巻

文化戊辰發兌

序

嘉肴ありとも食せざれば其味を知ることなし。
國治まりて武士の忠も武勇もあらずとも。
大序の詞よりかひなし。破れ中の金あり。泥中より
蓮あり。人と馬とは乗ふ。そこ見えよとい義
平の詞。由良之助も野猪も。ひとつ役者の仲間なり。
用ふると用ひぬとは。とうやの饅頭嵐本戸天と
川とのごひとしすりぬ。その頃ひる弥のつれ。
天徳寺のうとこ。忠臣蔵の一本を得よう。

よめぬ所は筆を加へて。ぞく〳〵一冊にとぢつらう。の陳寿が三國志を。よめる人の。孔明関羽を。ぞく〳〵ひのごろ。序手づゝひの人形とあるは。演義をよまざる語なり。おのれ古寺古廟のぬりどめをさゞる異本ずきのひゞ心よりは。げふ山書い孫呉ゞ秘書。我ゝめの六韜三略一別以来めづゝしやと。獨めづゝゝ孫子ゞるい風雅でもなく洒落でもなくと。日本一の痴漢はめでみの。

六樹園門人

石川清澄

忠臣義士長門本。新板かたゝ道中双六。目をたゝの尼ぜゝぬ。育法師の婿は男三國一の三平二満。てゝが作者のたゝ敵。狸の角を漬種ゞ高ゞ。義心ゝかゝ手元のいゝぶみ。毎公所著の詩の謎。けゝたゝふ歌のきゝの芋。あんどゝ取てゝ賜物の。餓のゝゝ旅衣ゝつゝ睦月の書初。ちよちよやちよさゞゝ石の。いゝゝゝゝ苔むすこと株七無亭椿丸きゝて

よこ本のたゞめふハおれが
やうな男がゝろてゐるゐ
ぐとりつて去ばゐがゝり
のおまをまでをひきだゝて
とゝまゝゝせておく
やつよ

ア、
ゝとゝゝ
びゝゝ

そゝておれがあゝるのゝて詩の
一首もかいてゝれゝばいゝよ
こゆおどゝゝとゝゝゝゝ
きゝゝゆ作者ゞ
さゝゝゞ

ぬくらうゝゝゝゝ

芝居の仮をしてゐくのよ
わしをえて人が与一をくと
いとまーくさいちうぐきの
ふぎりめーをもつてゐる
ゆえぐ
あらうう

そんなさおとをもおかるであらうと
人がらひやーくわくーやをとうんでも
よつぐどちりのおめいめぐものを

男
女
奉公人口入所
戊辰年
新鑄

おいらァ三人のかりうとぢやァねよ
附よ幕ゲあいさらう
まいつてるあうぢやァ
ねくろ

正是老狐魅里正
不知猪戸在後
とは
どうじく

本舞臺三間のあひだ。蒙屋づくり。種ゞ飾
六義づくしみうの体。勘平ゞ切腹の習ひなく。
六段目の竪ゝれあみあり。やつわら弥八裡の
角を清。三人の禅人は義ゝ本文ふりを
くる事をきらう。計書伏生ゞ偽へり
あらぎと。稗田の所禮ゞ口振ふあらぎと。大夫
直傳の正本ちがうねで。聊音節墨譜を
用ひざるそ淨瑠璃つまるはり主ゝ調ふて
幕を明せう

長門本忠臣藏

○山ざき

山崎の村をづきよ。倒ゝをかうし一刹あり。貧ゝ神
の現形ありて家ゝと云めゝ宮柱ふとくたてゆる
煙りぶくよ。たゝく近所の買ものもたらもの家
い塵紙のゆゞき紙帳のあるあゝ腮をつるせし
すゑひるり。めちうゝまをアの福乃神を。三舎を
酒でまぶらうゝ。上戸のひゝひ。盃まへのいひとけ
るゝを種ゞ碍の六義といふ禅人ハ亭主みぐらも

こをひろ〳〵。酔てハ三百六十日。日〳〵ゑ泥田を棒の
さき。うちをゑる。遊びずきゑるすゑ油引も内
義のお市すぐぢんたく借ごと。むちゃく夜食の
おくさまりゑ。一夜とゑづけし盲の子。むこいくの川
の字ゑ。新子三人寝くゃのてど。見えこぬ果報ぞ
ぜひもゑのさ。さみせんひきさしセゲきの一夜「モシく
おくさま。とゝゑんまぐのどうきやらぬゑ。「さきづい
のをとつひ出らきてまぐのどうきやらぬゑ。ゆ
いゑりまゝをぐうついく。おの玉ゑゑつまゝきを

さつきやらぬゑ。わんゑだんゑゑんゑ。ゑゝゑ。ゑゝゑ名を
いち下戸〳〵上戸と夫婦ゑゑつゝゑ。うらおも
てのちぐひぢやりいの。ゑゝでゑゝのゑ義どの。ゑん
ゑくつゝいゑ一夜でも。内ゑゑゝとゑゑい。「イヤヤ
一夜とおつきやきゑ。ゑゝぐ名を一夜と付ゑゑを
ゑゝゑんぞふゑいゑけでもどざりゑすゑ。「さい
ゑゑゑ。そゑゑゑゝゑゝゑのとゝ。疱瘡ぐ目〳〵をひつて。
そゑゑゝほりゑゑゝゑゑゑ

犬の思

世ぐさせさく。アノ一夜検挑といふことをけん
とくふーて。けんぎやうは去て見くらい望ぐ。そきで。
一夜とつけさるいの。サアく又奥へいて。けびけいこの
ぐ〳〵つきてのさみせんさらや。ドレひる飯のおさく
せうかとたすきをあつてさくづる。つきづけいの
中道づくひ笛〳〵とうつくるおやぢみセろさきまも
去むしいやすむと。うをとうさひて主の六兵衛帯
の先へ行燈を白い布まてむすびつけ。踊り狂ひく陶り
くる「ヲヽ生酔どうお久らといひつ立く女房のお市ぐ

かるう汲でくる。茶椀ろり塩茂一つのみ。何のおぐ家。
酔ざまし。ひとロのんぐ。あとらあけ。せろか
くおりーろう酔さ酒。さませさん。アろくる夏
のみ。時ろふとつひの外をそつとひ夏ぐあつく
ぐ。屋根ぐさぐりさぐあらうる。「りつこだんろ。
市歩いすりたちつしや縞とかぶつくあのいぐ
ろいのそーとなさんこ日だのり。どうりとまつ
くなさんしーされぐとそ。大ろの事をおろあ
れ。丹波与依がおろり。極楽いいづくのおどろひ

しよ。酒のさげんさねとれ我家。チワトとむらへ
アそらや。只のおやゆび。そらこつ。ついぐおめうぢや
と只くさたで。これこるくちゆれさつちゆるる。酔
どれこめつくわくいたどとするひゆぐるいれめ
ん。こたくたそひるし。おそれがれよこらの方
のさげんよるくぬ平知へ。おるじ仲るのめつぞう
糸八。すげ笠こりめん合羽。こちぐここく内
よ入わび。糸八さん。よようお出。ぞれびおまへ強
ぐこくらやぐどく俄おいうちゆんす。とらへめつ

ぞう。これびくこしが只の鎌倉の町人大名めこへ
出入こく。只くるるこめこう中る六尺日雇こも
りする。ぐ商賣。所ぐ只が病氣づこ。めづるのの
もるいこめひ。わこよ下つくお續せいこいつく
おここつこ。又らちの呼ぬ狩人もこよう。そ
の前ぐまこと只つく。今めこ俄こ下るようけ。
ちよつこいこるどひこここまここ。こいくべいい義。ち
ろく同るめこ。それいめぐこいく。時よ家公人
の肝入とこけぐるんと家公する人ぐあるぐ。これ

くいんぐいでさるまいい。「まいやうけのめ商
賣のべとまくきべ。なるるる

おのれ
ひませぬ
ぬくとくそだて
おかもごーやう
とおもひしに
おつ取りなされて
くやさうませ
そんじゃ
ハンゲいでも
ゆくまんでも
やろうしまを

ふりかめうろうの
こぞうとりあて
ふつと立ちは
うりとりかうの
ちろまでも
やくさんばかぢや
ゆすりの
かまくらぐり
とへうろう山ちの
やろうかも
とんぐろうん
うまーのく
はうんのうの
ぢんもんの天川を
ぶすかとうてうつ
ぶつかもこびま
せぬ

どうぞせうぐもつをくいてゞされいとしあるめつ
がうとろろく。時よ六度。一秋を生ずは
ろろとろう金のぞみがあるうサアさーあとは
て十両ばかり急よるあるべるくぬ金。そむかを立て
さくあんどらて盲の子をてでるす心を。すいりやう
してどうぞ十あよ買くてされイヤくとりやるれが
名のめつがうぢや。どろのくあるざろうの場を。十あ
ざーてどれがかつのでちーちめのろのみる
れべるあるくいるうムくすりやるあよ

てろくいかそれぬじやすくパテあんとーこれであ
うと。あをとめぞ。女房おいち。てんのいろぬざん
る屋がひさうふあの一夜。さんざよでもあるとと
う。遠いそるかよ鎌倉三ざい。どうーてをるみやそて
祀。こりやとなさん。さぐちうふさのとくで六番女房
ぐ新成つくぐーうちまりり。ひさんの涙りくれ
けるぐ。かそひや女房。そらいさんるもちくぬ。ごさ
ろれとそるさぐ仲人ろ屋。よ市会出おのか。おとひ
廿九日の夜。人よそくれくそらいあ。ヤアそ

れいまあ。コリヤまづびつくりする。つねのごとくれいぎを
めづかる。ふしぎな勘平夫婦も。そこそこつつ。ちんぢゃ
ゆい。コリヤ〳〵それいわんいのつ〳〵女夫ぐまでこと
けのとうびあひ。むづかしうまりと知る。なをいとく
なのくらひとつづ。ひとつ夫婦よりつづみわれべちんべ
しものすれぬ恩ある人。そのうえ婚の勘平なを。
武士家のないやさしい人。コリヤまあどうもこのの
であろ。そしておりるなのみのうえ。おりるなの。
ぎちん町へつとめまと。あとふのとつとへおふくろ

一人きのみめづ泣づめるうりなるれる
ないとそもどめづ学さ夫の泡おいちいちぐうせさ
あげく。たよりのないいねのもをうちりりもくと
のとりちみう。山ろりまるもえへそなもとういさ
をつうりひひまし。のつさひるひぐなを一えなか。
おとりのうく。勘平なへ三年ろ成田屋ぐ七代目ま
ういお人のちつさるとん。さぞのなしうう。くちを
しうう。さぞりとうとぐあづふのみなぜとぐえ
ろいドさんせぬ。ヤぶんのちみまさいうぬちま

しが身のおちぶれ袖にぼたぼたと。涙を手ぬぐいにおとす。その右がわ
のさいどとりのいぬ。おうとらの一くぐ屋の。光殿よりと
こんどいとみ居る糸八屋
と。狸の角へ　れが右ぐぼりとつとそべよついて
力ぐ。右のうりもの。この物屋。笑止ぐとらの
ぐをうり。すぐうり生ぐ。ぬつぐ方。あつぐらしい動
平屋と。みすぐところしてたまつぐとぐらあげ
べとものぐうり。「諸行無常。せらめつめつのとつり
すぐぐ。お代官へねぐうぐ。めつぐとつとうぐ

右れとらのうぐ。しが名のせうめつうぐうぐひよ
んな事ぐいひましぐとと。糸八の十面。六屋八涙の
袖に打ぐぐひとれものの糸をすぐぐ。せめぐおお
れがうぐ。石塔ふうう建立しておふうりけた
るしるのとうと。おりくどまづしおれが身ぬら
へぐうせうとふうち。糸八屋のそなしるそおお
りひつらぐ一夜がすぐ。ぐうりとぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐ
めめぐうのうを人手ぐうぐとす。拝ぐ心の間を。
ぐうぐうおとうぐ速ひどと。声をあげぐ。むせぐを

おまくちあるこしぢやとて
おまひとりのれうけんぐく
こをとろ
ざとろこ
しやうとろ
そのうねま
おまく
ちろざとろ
ろーや
それぢ
くろろ
ざとろ
ぢやといの
おまをうるくといえれるが
かげまおでもさろころ
あろうア
たや屋と
おあどとで
ちろうの
おあぢ
せまい
ろう
あんじ
られろ

こびざち
ちんづうの
おあたまぬ
めろひきを
しろ
おろろぢよ
山の神の
ぢたくちん
おそまろくて
ヤもヤろけ
やぶれろおひの
そをを
ふりろ
きこーめとと
ヤも

たゞさくいさらいふ心ぐあつて。おの二人のぞいと
るゝぶ一杯が身わい。祿さとう。縁日開帳の庭うたち。
ゆきての人う物をとこ。孤度乃れとうもいとうまじ。
あんま汁とよびあるた。さえつる冬の雪や
氷うとぐゝれゝ。するどい風う吹くふさき。
うきうんなんたすれどとゝ。まんのいとう絲八百。
おつれるされゝ下されと。鼻をすうゝだを度
ゝ。夫婦ぐそろ度。おひひりめつやうもめをえび
ゝき。道理づくめのあうれなげさうすぐう。

ゝ。商賣のうひ山ぶみう。めくゝのゝを十度
よのゝゝい。見へるいしそいひをけゝ。パテとすゝ
さ物とえうをうけぐ。おゝ市ゝつゝ徳利う出し。
うれゝけゝ買ゝおいさぐ。絲八百も六箇ぐのも。
ゝぐ一杯あゝりませ。ゆるゝと後合ゝうゝぐ。
又よい去あんもあうを物。うの人もゝみ
をゝしてゝれぐ酒ゝもむりよあゝずぐよも
や金もでくまひと。徳利度ゝ金の中つゝとむ
ちうのゝんだゝ。うれいすみ酒ちうを。

弥八がおいさつ。六蔵へとも奥へぞ入りける。
人のところのもくふのさ。山陰のあばらやとぞ見給
へ。家ゝくる人い。狸の角えぐが女房おきん。屋
のあるいの家ぬい長ぬがいひしひざくりげ。鳥
銃を腰ゝこし行義おまたび。いりの戸ぐち。
「たのみませうくとひの声ゝ。さすがとびて
とんぐ出るい。ものぐりあるゞの女房のおいち。
「ぐりれといひく義をえあいせ。これいくおきん
夏。こあくこちくの先おゝ。まとよそのちい。

ぬぶさたいこしまし。ぐちとおめりめくりるひ
ゆうすようぐ。ぐ糸ぐまし。たとえやぐりけ
くおりてのうこ。娘ゝとよび出せば。谷の戸あ
ぬ教法ゝ。鷲むすめのひぢゝ股頬いるく
て鼻ひくこいろは丹花のくちびるぬも。あつぶ
ゝたすれがゝしのうち。「あの一筋角のおやし
きぬりゝとめぐ。ぐしいも蟲ぐよし。
「すゝくとれへおとれりとお市ぐあひさつ。狸のお犯
ん。八ぐくめくゝとれれば。すぬいそくむすめ

のお福。母うつたへ。坐なされば。おいらもとや
うなら。自ひよりゆさのぢでおむこい。京まい
りのされこそ。ぢおん清水。ちおん院。大佛さま
の鼻の穴へ。ゆこと舟うたへひるといの。さんのくるね
えい。狸屋の方まいよいつぐおりそる事といの
うちおさん行義をあるこめ。今日まつ方をしい。
外の事でもどざりませぬ。これなる娘お福と。ぼこ子
息の一枝屋といひなづけ。彼ーこれど。酢のちんぶ
ゆのと婚礼も延引。方もちぶんの娘をやり

おうこーゆさ。鳥銳の夫ぢ重代。これ成ひさ
ぐ。お上まして。六巻屋まもお日りのり。祝言
させおうちつたさひ。さいさひけあの日ぐもよし。
用意なされ。ぢりませこ。仁ハまるこ。ひ
もよぬ。伝せなるやどさぐう。狸屋の娘ども
らひませう。おうべ。これらと。のひゆくそくへゆた
れども。貧乏ひまなく。三人ぐちまもおいま
ますれ。口のふえるおそれる中へ。ひりゆくそ
くなれべとう。角屋のおむすめど。姫よりひ

寸法
ちがひ
道り
ゆくてゑる
だうり
ひとり
人形
いつくし
むでんかて
をどるべり
あまぜ
ちり
ふま
およぶもも
左
山さとぎ村

うけまして。桃次郎つぐ孫。下谷とやをみそ。
その焼味噌のびんぼうせ世帯へ。お福度とい名もつ
あめいねび。此よめいり。変改しますと。ずつけと
いへど。いやいやいつるんたのみを。ちうこうしられば。
天下ちれちの一枚が女房。今おりしろい女房な
らば夫がさる。一枚よめちちゝけ母ぐ。さみと峠のさ
ざえのつぶ焼。ちりのぬくまぬその内ち。ちうと
とひんぐりひませちう。たゆくといひそなし心
だての荒すぐれぐとと引あけ入りけりむす

めいつと泣出しさられるおがへりてしやないと。
ちうぐりなげで。母おやい。娘のおそをつぐとう
ちうぐめく。親のよく目ぐ。えちぐすもえんよ
そなちのちりゆうるる。頬い饅頭。團子鼻。目い
されまうと。なく声い。鶏うけちくひてい。
よいえ世物と人ちの。ちるちいのをちちまうい。
只人ちそいせちいあいをぐうしいちれちあ
る。めちの女房が相應と。縁をちんぐ一枚ぐあ。む
ちふちちさびさつくとちいぐうしもいそれぬお

市どの。だんが高大寺のあのとほり。あんぐさが
それとゆ〳〵こなおいらの毛まんだらめ。ナツコレ
むすめ。今たく通アの男れ性根さうこゑつ
らあ〳〵ゐ。ゐ〳〵ゐる坐頭いせけんり山こゐろのめく
らりそゑきいないろ。コレきつうりと返るきゑ。ど
うぢや〳〵とうるる釈のきいたり引。めしの義や
笠ふうる。母の何ゐられしいご。頁女夫よまみ
こずゝとく夫ごめく〳〵ぐも。ゐまち消うどゝす
ゑこすよ。母のある男やと同前り。めゝずゝねご

ゐるもつまみぐひしゝくきめれゑ。とねがゝしま
す婦の虎へ孝行をしゝゝ女夫中。ゐるくゐごけて。
さゝゝるとゝとゝ母のおつしゃつることゝゐてゝしやよ
うおぼえゝゝゐる。一歩母よりゐゑのとのどん。こ
しご心りうるひまもせぬめゝゝとひとすらり。
声ゑてめゝ心ねをゝとくまこうねゐやの。
涙の玉をとめおさし。めくどのてつぽうとりあぐ
る。母ゝとしい何どとおゝとむれぐゝゝら声
一間のゐゑらめこうみ。世の中のことゝぶゝ。

いやつのたゝかつて。百の海をぶつけてくれと
いふてあつて。そこをりふしりちあひなければ。
朝鮮国の十郎のつとめ。百の海のかたりよるぞ
へ。鳥鋭をとるしゝ。おいちぶつてぶつほけて
やうん。そこをとるしやと立あがる。折ゝひとる
の障子をおしあけ。耳そぞとつるめつぽり絲
八。そこらいの六義酔どち。枕ぞしゝ高ひび
こ。とうさへ鳥鋭とりあぐれ。とりつゝ娘よめも
ひけず。一間よむひゝおきんがねゝひぶつさり

すぶんとをせる音。耳ろ入ゝやあるゞ乃
六蔵。すつくとつゝ。今をもをせ鳥鋭を。
筒ろ音あつゝさたりおとなし。ふとんの上の
寐小便。さゝへ玉をそそてつぷうなるの
万八ぞとぞんまへす表のそりどの方。蠢いとびさ
ふふいのゝ。丑のゝつり。なるとゝ巳のつれるの
らん。女房よろとくむすめよめごよろこいや。
どいひつゝびる狸の角用ゝ。名へ稗蒔の茶山子
のごく。義ゝらのつぎ竹のこの笠ぬぎすて。

ぶつ
ぴよーしやあ
しにまちく
とんぢうく
きつぶり
らーい
つくね
ぶね
けまり
うけつ
ちくくくはむ
いかをぎぶう
ようく
ぢむようかおいて
ようれと
ぢき
ぴよあい
よいく
まはんを
ナーアやど

ぬ
ぎつけびんご
の三帝と
いよのぬぐぶあらーミのうき
のてーちぎくくなけち
十ごいぐるあみふんぐれさうありのぐ
ようくつの兄ざのまれとりぐろうあてぎ
うねこうまーてハやらくぞつまらぬ
やつぞう
ぬうりの
水ぐさと
いやあ
ぐらう

ちづくと。内へとゐ生ぐ。ヤア おまへとてる。こちの
人と。おどろきこと。けば。ヤア宿なしの蟲のやうな。
ざへくとめしまいぞ。ヤア〳〵 弥八兵衛。よつくえ
らんよ。狸の角えぐ。化の皮。只今正体あらはれ
ぬると。ひよりより。ぎろくめろ。肌おしぬぎ。腰なる
ひとこしぬくよりそ。たゝゆく。よごつとつたらう
る。おどろきすぐる。女房娘。あるじ夫婦めつが
うも。ともりあきれて。詞なし。角えくるしき
息。成つるこ。此狸がめくどの生害あの〳〵よもさぞふ

ふんすると。當春。鶴ぐ園造営のみぎり。養蚕の
やめい。我主人塩谷判官高野師直よ恥しめられ。
あつ〳〵すれこ。ぐうう。判官とのまへ。せつぷ
くとよりそれぐ。いけ村の狩人ぐ。ゐて
ちぐるこ。かけおちして鎌倉へ下り。おのそび判
官どの。ゐなゐ。それより一家中ちり〳〵とるつこ
れば。當村へこちぬり。ちこいとこけど。平どの。
おるる。の孫ぐつれて。女一えくどの。聟とるれ
ぬ。おのれ。不肖ありとくどる。主を思ふ忠心へい

〻〻大星父子も。おとられべき。とうそ勘平をべき。の
ら死あたを。主人のあ〻〻師直めを。うらとめんとおり
ども。ゆえの〻〻ぬ一六故なれい。うと心底もあうされ
ず。日よりをえあをせるあひごろ。おりひがける
く勘平をい。きのふたち〻切っく〻死なひぬ。うむさ
んぢう。さくい我〻〻ときうちの至も叶をべ。そうう
へりとをうづぬれが。実をうとうとうもうう市
をくをのうがいを。うきとんぢが證拠とうう。うみ
ふおり〻勘平をを。とろ〻てのけうい。我あやまり。

朋友が対〻義をうう〻うい。主人へ忠もたう〻れぬ。
山なみが生う〻せんなけんが。〻〻どういめ〻さいどぞ
や。とおうこれが六義。うるをど〻。一昨年家出せう〻
れ〻これ〻もうる処うう。さう〻いうぐ〻〻歌合
をへ。ゆをいうこれ〻。こて〻いうる名字とうの
を。うう役をつとあう〻れ〻と。とくべ角をくを日とおう〻
ぬぐ。「うのりをいいんもめんやく涙ぢくむ神さへ
せをけんが。武士をいう〻二合よ。とろがそいい
とびん奴角内とう我本名。杢のみとりのわを眉

も。めづらしい屋舗を拵へられし。おかる母の供をして。桃灯ひとつ足利屋の。門前まで来つるが。主人の家のいとまどひ時も。ひとりぼつち。日もかたむくまで。高辛屋も俄の宿なし。とづきもあるまぬ山崎村へ。相ずみもうさも他生の孫。りとより我と。おてまへと。ちん。三人おなじ。牡人うち。桃園よ義をむすひ。智仁勇の三福對。りうこーの三笑よも。ちうこーみの。穿らねど。森松樹よりそへーも。引哥よりあり。とりつけぞや。ちうるよ六彦屋の義心。ちうるく。

石碑料。ちいとなまんとある。お一夜がみのちろ五両ちうくば。ひるま五両ちうざれば。當惑の心をさつし。娘なおーちの姿入れ。一秋と共よ東国へちうよ。ひるーちうさ。さすれば二人が身のちろまで。十両の金ちてのひるば。石碑建立業の内。せめくいす志の忠義ありと。おりひつひるる角内が。心をさつーて孫八どの。お福もつんちうて。ちうされと。よをあてすれば。孫八もわろう。「なるよがさちく。すなちち二人う身のちろ銀南濠ぐちられちあり。十九日や五

お里がちょうきりのちぎりのうんぐでよつわどぢやくのきーとところをぬきぬきふかいあうちをゆーふ
ケムいそうりの日ぢやアぬんぞ

あるとき川ごーのけいこさたづのめくろちぐつてちーそくりきのちぐちぐもあります

ヲヤくろちとーことがけんをなぎうとおもひちぐくてあげーの走るうぢうきゆてむーふゆつさ

ふろーと三ねん塩釜さるく
ちぐちーくーくーて
たくーをきるーふろ
いろよ待くぢやよて

そうや
たんじゃで
ぢぢんち
ぐーちうーと
むうひろーしーぬ

かれを
うーーーーーー
たいさいおちうようの
えそうであらーーとぢやア
そうそう
客人もあるさうふめざ

十万一日一万の回向料百ヶ日まで。百ヶぬ八十万と
さし出せば。六義手ずりとり司る糸なしく。石碑
成就すれば近へ。蛍よりもらいさぬ山うぶとれより石
屋ゞ方へ立とえ。勘平夏の石ぶこう。嗚呼忠臣涉
腹と彫つけさせ。末の世のこすべしとさく
ありがと山吹の小判ありぬ。面漆おりきれ
恩とおしいとでく。おいらい一枚ぶ枚とつて
りるひ出。玉椿のハチ代まぶーとも祝いれず。なるよ
生る姫ちぶ。ゆうるめでとい。なしいをいない。のう

いのとがいやさよ。見相づうしとうぶべうのぶ。さぞ
あうらうぶどざんちうのぶ。イ、ニイナうしとそ
うぶつまく。おいち毛まるんらうとのうのぶ。おうの
どくや蠅のあうま。とれあいせくとうとます。お
いら見。おうとん見。氏も素性もあい子どのうぶ。なんとも
うぶ山ゆうな。のうこい物よりうまれうと。声も涙ぶきう
あぐる。角ぶくあうう泪ぶ。あうこ。ハッうんしゃ
んのうや。伊勢近江のでうちなえい。とうようぶ。
子をうつく義をうつる。我村の与市兵衛とて

のあるじのたねが舅。ひろい村よりくらべこと二人。
そのひとりを家よりう。一枚がつまりうつる
い。両國四條の廿孤芝居よ。唯こへのぶつこんせ物よ
百ばかりまつこつ。そちらが身い狩人の娘のいん
ぐと物。風景な娘が婚屋へおひとこの目録進上と。
らこいらうよりとり生すと。一枚とつくおいこ
ぐた。こぐりみんどつくねが。おいちがよれおし
ひつけで。目録なぬ道中双六。山こ川こ宿こま
ぐ。繪圖よくしつけくり。絲八とつくお

しくでこ。饗応まくをくれしい。一と六の
家の名をつすれず。肌をなすうとの。一枚へのこ
まあるくん。コレくはぐ。ぜくこちんせ。とれとを五
十三次をねるぐあのむ。ひごくげ馬をいちいを
中双六なり。うねく東海道と定めこれべ箱根
八里へるぐとし。川をこちいりどーのあるる
つくめが衿よこん。そこ成ちくい。かうこえてと
絲八がよろごひ。あるしの六義なるっちく布ひこ
すぐよ。行燈とくかこるあと。夫婦の子どりが

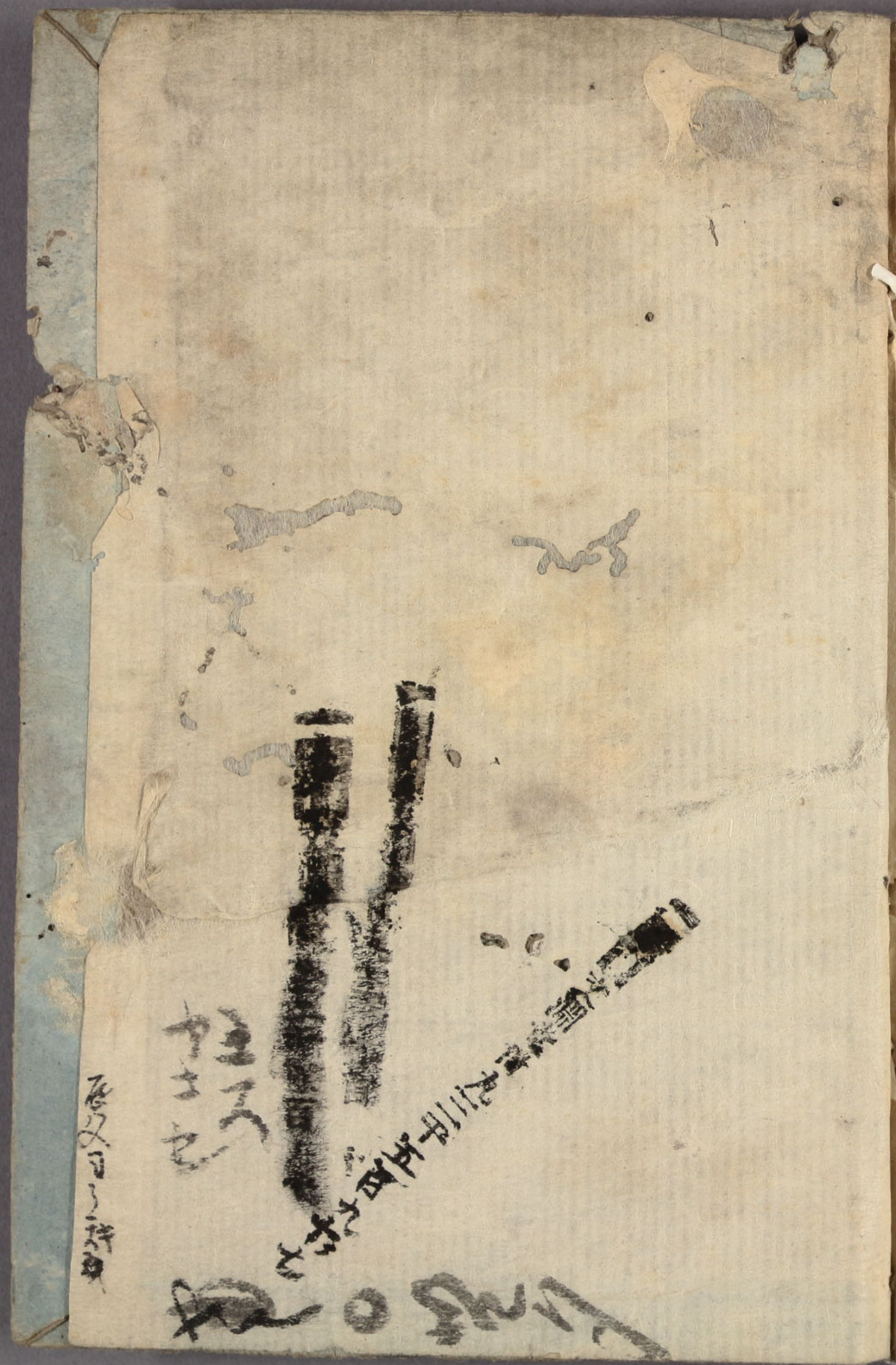
かしまだちなるむけの山二品とれうる木綿一丈八。せごれ一疋へ紙ろうそくみ我せとが。犢鼻褌よする圓石の。吉野の山より氷臭ゞ下れ。さゞなみも長さ山ゐそ布。コレふんどーとなーかいくれ。又ゝあんどんか。娘女へてるむけ。今よりうゞたあつまの衾。旅館の寒燈。ひとり眠らず。山ゐけの油ゐゞず。コレ骨さよ死させ下されると。つこせびらけとる二人の子ども。角をへむすめが死とゝ。そちゞなるのゆさとを高の師

直が館なれが。ゆー塩谷家の浪人ゝち。夜打と師直ゞ。寐所まゞ。ちびきーくうとせてくれ。かるゝびぬのるゝュしおふく。ゝもの夜打と。ゝゝこゝ。繻伴ひとつよ行燈白つゝ。ゆゞ迫くあるゝゝる。又聟ゝ。びつくりしゝ。ゆゞそゞゝゝ。音さゞーしゝ。そのふんどーをうゞくずり。ゝゝゝ。ゝよゝ。ゝまどついゝ。世上よ孤をゝゝゝ。ゝゝ死さゝてくれるゝと。末の末を

あんどるを蛸がくすする。いまたの一言さてとそ
夜話の騒動りう。あんどん持とも福とふんど
長く引ずりし。首坊主の山二人今の世までも
らし繪よりものおりげ死べのこーれ。時刻
うつるとめつぶう弥八。子どもがも死とり。と
ちあのれが。うねくどのおいちがうのげされど
なとをとぎりまく。などりをしさの山と死。
いちぬとろどいぢしと。ておひを今をごん
まつ。おやちのえんも。玉とごこ。とくく跡うと

灰ふとの。竹のちゆしいとー子を。すとるい世
話の薮の中。出ゆく足り蚊ごとり。のゆとのく
ゆと。ゆとうやなとれやたくとう道心と枕とう
ふるとちん宿。旅のちごりい。一秋とお福とも
手よ手死鳥ごく。東の方へぞ出くゆく。

長門本忠臣蔵



飛彈匠物語　六樹園著　六冊

魁蕾標注そのゆき　曲亭馬琴著　五冊

春霄奇談　壁落穂後編　五冊

忠孝潮来武志　立川馬琴著　五冊

矜本毒　高野薙刀　松窓山人著　二冊

絵入　長門本忠臣蔵　六樹園門人清澄著　一冊

右之本當年出板仕ひ召出来候ハ、後ニ御下ひ

文化五年辰正月發行

通油町　村田屋治兵衛

麹町平川町三丁目　角丸屋甚助板

江都書林